厚木基地をめぐる動向

空母と艦載機の動き

昨年11月20日に横須賀に入港した米海軍の空母ジョージ・ワシントンは、およそ7か月を経過した6月26日に横須賀を出港し、厚木基地に飛来していた空母艦載機も厚木基地を後にしました。

空母の横須賀入港中、その艦載機が厚木基地を拠点に離着陸を繰り返し、市民に甚大な騒音被害をもたらしました。

空母の出港に先立つ5月24日、防衛省は、6月1日～11日に硫黄島で着陸訓練を実施すると公表しました。この公表の中で、「硫黄島の天候等の事情によっては厚木基地で訓練を実施する」とされたことから、大木市長はただちに厚木基地を訪れ、司令官のスティーブン・J・ウィーマン大佐に対し、厚木基地で着陸訓練を実施することがないよう直接求めました。

住宅地上空を飛行する
空母艦載機F/A-18

しかし、その後、空母の出港スケジュールの変更などにより、硫黄島での着陸訓練の日時が3度にわたって延長され、その間も艦載機の飛行が続いたことにより、市民はさらなる騒音被害に苦しみました。

この訓練期間の延長に際しても、「硫黄島の天候等の事情によっては厚木基地で実施する」とされたことから、市では繰り返し、厚木基地で実施しないよう国や米軍に働きかけてきました。

結果として、6月24日までに全ての着陸訓練が硫黄島で終了し、26日には空母ジョージ・ワシントンは横須賀を出港しました。しかし、空母出港後の28日～30日の深夜には厚木基地で艦載機の飛行が見られました。深夜に何度も繰り返される騒音により市民に甚大な被害がもたらされたことから、7月1日、大木市長が厚木基地を訪れ、ウィーマン大佐に対し、深夜の離着陸を行わないなど市民生活に十分配慮することを強く求めました。これに対しウィーマン大佐は、「遅い時間の飛行になり申し訳なく思っている。周辺の住民に迷惑をかけたことは理解している」などと述べました。また、併せて同様の要請を防衛大臣や外務大臣などに対しても実施しました。

市では、今後も航空機騒音の軽減を国や米軍などに働きかけていきます。

P-1哨戒機に関する動向

6月20日、山本達夫南関東防衛局長が本市を訪れ、6月末に納入予定だった海上自衛隊P-1哨戒機の量産機について、製造会社による社内飛行試験中、エンジンに不具合が発生したことを、大木市長に説明しました。また、説明によれば、「不具合の発見後、P-1哨戒機は飛行を停止し、飛行再開は対応策の実施後になる予定である。これに伴い、6月末に予定されていたP-1量産機2機の配備も遅れる見込みとなる。なお、量産機に先立って製造されていた試作機には不具合が発生しないことを確認したため飛行を再開した」とのことでした。

これを受け、大木市長は、航空機の安全性に対する市民の不安に十分配慮し、今後、徹底した原因究明を行うとともに、安全性への意識を改め、安全確保に向け体制を見直すなど、抜本的な対策を講じるよう要請しました。

航空機の安全は極めて重要であることから、市では、今後も国や米軍などに対し、安全確保に万全を期すよう求めていきます。

問市役所基地対策課基地対策担当☎(260)5310 FAX(260)5316。

上半期の災害概要

今年1月～6月の市内の災害概要をお知らせします。

火災の件数は26件で、前年と比べ16件減少しました。火災の種類では建物火災が15件と最多でした。出火原因では「放火」が7件と最も多く、次いで「たばこ」が4件となっています。吸い殻は、火が確実に消えていることを確認してから捨てましょう。

救急の件数は5,189件で、前年と比べ361件増加しました。出動理由は、急病が3,295件で最も多く、次いで一般負傷690件、交通事故472件となっています。引き続き救急車の適正な利用にご協力をお願いします。

救助の件数は64件で、前年と比べ24件減少しました。出動理由は、建物の事故(室内への閉じ込めなど)が24件で最も多くなっています。

問消防署管理課庶務担当☎FAX(260)5779。